



はぐくみ

～すすんであいさつ・目を見てあいさつ・笑顔であいさつ～

立花北小 校長室だより

令和5年9月6日発行

No.4「帰って来た学校の主役たち」

発行者：校長 佐野 正信

学校の主役たちが帰ってきました

夏休みが終わり、学校に子どもたちが帰って来ました。スポーツに打ち込んだ子や毎日児童ホームに通っていた子は元気いっぱいでしたが、そうでない子の表情を見るとなかなか厳しいスタートのようでした。ところが、その日、帰っていく時の子どもたちの顔は、どの子も笑顔に変わっていました。学校は、単に学習の場だけでなく、子どもたちにとって大切な場であることをあらためて感じた始業式の日でありました。

一週間が過ぎ、運動場には暑さに負けず、元気に遊びに出てくる子どもたちが増えました。自分たちで時計を見ながら、時間になったら掃除場所へ向かう子どもたち。どの子も黙々とそうじに取り組んでいます。ほっとウィークを経て、いよいよ立北の子どもたちのスイッチが入ってくるのを感じています。



2学期の生活目標『助けて助けて助け合おう』

～少しのがまんと少しのやさしさを大切に～

始業式では生徒指導担当の先生からお話がありました。「2学期は本当に長いですから、いろいろなことが起こります。そこで、2学期の目標は、『助けて助けて助け合おう』です。そのために、大事なことを言いますよ。少しのがまんと少しのやさしさを大切にしてほしいと思います。」そんなお話でした。立北小校歌の歌詞にあるように、「力いっぱいのびて、助け合いつつすすむ」そんな2学期にしていきたいものです。



力作ぞろいの作品たちに感動！ ～校内夏休み作品展～



作品展はご覧いただけただでしょうか。

どの作品も思いの詰まった素晴らしいものばかりで感動しました。作品から伝わってきたのは、ご家族と対話や地域の方々とのつながりです。お父さんの工場を見たことをきっかけに行った調べ学習、モンキーつり輪から落ちて骨折してしまったことをご家族の協力でもとめた記録、熱中症に気をつけながら夏フェスへ参加した思い出の記録、ご家族とナガサキやヒロシマへ出かけて感じた平和のありがたさ、頑張って練習に取り組み本番の盆踊りでたたいた太鼓の思い出…等々、ここでは紹介しきれません。市の作品展等選ばれた子どもでもない子どもも頑張りがいっぱい伝わってくる素晴らしい校内作品展でした。共に考えてくださったご家族や支えてくださった地域の方々に恵まれて、立北の子どもたちは本当に幸せだと感じました。有難うございました。